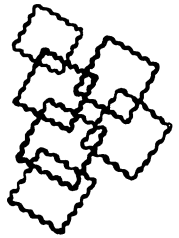


# 博物館ノート

# 『家世

# 実紀』



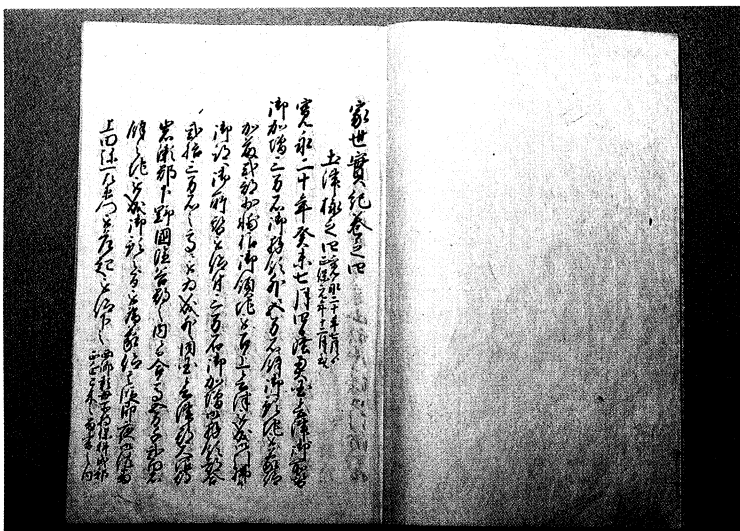
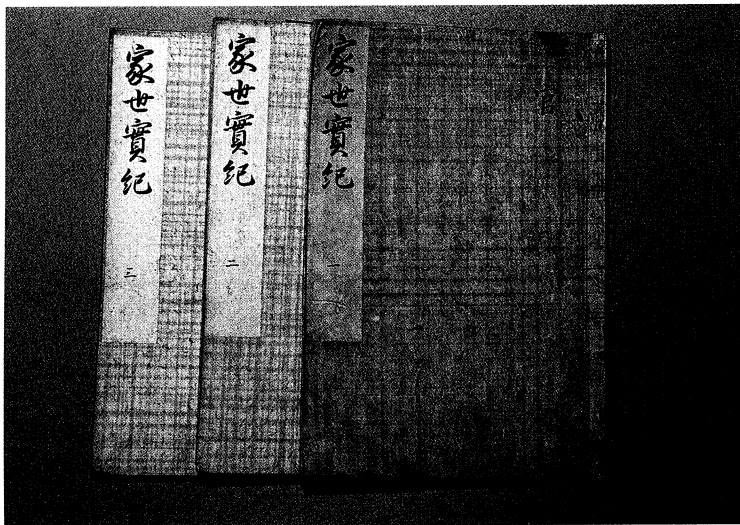
一八一五（文化二二）年六月完成

二七七巻

『家世実紀』は、一六三二（寛永八）年から一八〇六（文化三）年までの一七六年間の会津藩の歴史を、編年体で記したものである。『同書』の目的は、幼少で七代藩主となった容衆（かたひろ）に「家世の旧事」を知らせることであった。

内容は、初代保科正之の信州高遠藩三万石相続からはじまり、参勤交代、家臣団の構成、年貢諸役、家中・町村の諸仕置など藩政関係はほとんど網羅されている。そのほか、風俗・文化・天変地異や町村での小さな事件までも記されている。

会津藩は戊辰戦争でほとんどの藩政文書を焼失しており、『家世実紀』は会津藩政史を知



り得る唯一の史料である。  
現在、『家世実紀』は当館本を含めて三セツトが現存しているが、このうち、当館本のみが一八一五年に完成した原本である。当館本は松平家に伝来し、第二次世界大戦中戦火に逢い、一部が焼失している。その後、会津若松市の御薬園に、一九八九（平成元）年以降は当館に寄託されていたが、本年六月に松平保定氏から当館に寄贈となった。